常磐海岸新報

旬刊月三回七、十七、二十七日
定價　一部　十錢　一ヶ月　二十錢
廣告料　一行　五十錢　場所指定十錢增
發行兼編輯印刷人　石井英次郎
發行所　福島縣平町堂前二十一　常磐海岸新報社

發刊の辭

正を扶け邪を碎くは之れ自ら社會の木鐸と任ずる新聞紙の使命なるは何人も信じて疑はぬ處である、此所に幾多新聞紙の存立する眞唯中、その信ずる主義主張を眞向に振擊し混濁せる政界に……將又沈滯せる業界に……頑迷にして不當なる守錢奴共に……一味の清涼劑を注する事も之れ又新聞紙の使命たる事と信ずる本紙は前述の如く數多の日刊旬刊等多紙ある中に猛然起つて之等百般の世相の上に一大警鐘を亂打し正邪曲直を遺憾なく批判せんとするものである。故に本紙は官權に眉びず權門に屈せず斬人斬馬の意氣と力とを以て勇歩邁進の信條である大方の諸君士即ち本紙創刊の所以亦茲に存するを諒せられたい。

財界恐慌の因原と

その反動作用の一考察〔上〕

佐藤生

我が國産業經濟界全般の状勢を見るに今春の財界動搖以來其の萎靡不振は一層深刻を加へた、そしてこの四月の金融大恐慌の到來に就きて一方に於ては憲政會内閣の消極政策の結果であると非難し他方に於ては旺んに積極政策の必要を絶叫してゐた、されば政友會が新に内閣を組織するや財界は其の積極政策に依つて財界回復手段の實現されるべきを期待を受けたのである。

則ち政友會は一方に於て金融大恐慌の跡始末をやり、又一方に財界回復の積極政策をやらなければならない位地に立つて居るわけ、あると各々絶叫したのである、金融大恐慌の善策に就きて當局は非常な努力をはらつて居る、然るに各方面に於ては政友會はその積極的財界回復政策の手品の種と蜜の甘さに蝟集する利權屋や政黨屋を操縱する財源を云々と非難して居る。

嵐の前の順風嵐の後の顚を考察せずして急遽の手段にばかり世人は走り易い。

この金融大恐慌を論ずる前にまた前に逆のぼり又今後に就いての社會層を論じてゆかねばなるまい、私は丁度この頃東京某新聞社の經濟部に席を置いて各方面に活躍して居つた、而して日本全國の銀行が一齊に四月二十二三日の兩日臨時休業をする事になつた、この時各部からはしきりに日本の何處かに暴動でも起りはしないかと心配顔をして居つた二日間の銀行休業は無事に經過し其の間にモラトリアムの緊急勅令は施行せられ次いで臨時議會は開かれて日本銀行特別融通及損失補償法案と臺灣の金融機關に對する資金融通に關する法律案とが何等支償はなく兩院を通過したのである。財界の動亂はこゝに一段落した事になつた。

這般の財界動亂の原因に就きては前にも述た如く大正九年の反動と十二年の震災とに在る。

日本の財界の創痍は大正九年と十二年とに於て原因して居る。

昭和二年に於て新たに生じたものではないと信じる最も銀行其の他の金融機關の創痍は大正九年十二年の當時よりも昭和二年に於て多少擴大して居つたかも知れない、然しながら大正九年又は十二年に於て或る一の企業會社が其の資産の大部分を失つた

即震災のために破壞せられ、又は火災の爲めに燒盡せられた、即物質的に滅失する場合と物質的には何等滅損しないけれども價格の激變に依つて經濟的に滅失する場合との兩者を包含して居る、而してこの資産の大部分を失つた一企業會社が直ちに減資積立金取崩等の方法に依つて其の資産の缺陷を補塡すれば財界の創痍は移轉しないのであるけれども我國の多數の企業會社が何等其の資産の缺陷を補塡せずし從來の配當を繼續して居つた場合には其の配當をなす減資は之を銀行其の他の金融機關より借り入るゝより外はなかつたのである。何んとなれば會社の資産には多大の缺陷を生じて居るが故に殘存せる確實なる資産より多少の利益を生ずるにしてもそれは到底全部の表面上の資産に對して配當を爲すに足りないのである。

甚しきに至つては殘存資産より生づる利益を以て會社の經費を償ふだにも足らざるものがあつた此等の企業會社は其の經費を得るために銀行より借入金をなした故に此等の借入金即企業會社の配當の不足を補い又は經費を支辨するための借入金は當初より返濟の見込なきものであつた、これがために銀行は新に回收不能の貸付をなしたのである銀行としては新に創痍を受けたのである然しながら之を財界全般より見れば企業會社の創痍が銀行に移轉したのである即財界創痍の移轉性と稱するのである兎に角我財界の創痍は昭和二年に至つて新に生じたのではない。

大正九年及十二年に生じたる創痍が移轉して企業會社より金融機關に及んだのである。金融機關は授信業務と受信業務とを同時に併せ行ふものであるが故にたとひ其の授信業務於て多大の缺陷があつても即ち其の貸出に多額の回收不能のものがあつても受信業務に於て信用を維持し得るならば即新なる預金又は借入金の受入があり又は舊き預金又は借入金の引出がなければ其の缺陷を曝露せずして當面を糊塗することが出來る。

我國多數の金融機關は大正九年又は十二年の事變に遭遇し自ら其の資産に多額の缺損を生じたのみならず財界創痍の移轉に依つて更に其の缺陷を擴大した而も受信業務の維持繼續に依つて昭和二年の春に至る迄其の缺陷を曝露しない事を得たが春三月震災手形に關する法律案の審議が帝國議會に於て紛糾して以來其の受信業務に於て急激なる收縮を見たがために遂に其の缺陷を外部に曝露するの止むなきに至つたのである

—〔次號つゞき〕—

社告

社員二名急募す。
志望者は本人來社
せられ度し

常磐海岸新報社

農村の經濟は副業の奬勵に有り

不況の風はあらゆる階級に波及し今や一般商家も事業家も之れが成行きに對しては何れも戰々胸々たる有樣である、殊に農村方面に於ては米價の暴落に至る所青息吐息の狀態を辿りつゝある有樣である。之れに就いて某氏は語る『昨今の如き農村の疲弊を未前に防ぐ方法としては是非副業の奬勵に俟つの外はない、農村の副業としても多々あるが中にも尤も容易にして最も少資本で成し得るものを推奬し度いものである、此の意味に於て養兎業とか　養鷄業を一般に普及して現今の如き緩和策に供し度いものである』云々と語つてゐた。

祝創刊

元代議士
安島重三郎
高岡唯一郎
白井博之

代議士
比佐昌平

元縣會議員
木村清治
井上茂作
大平睦四郎
小野晉平
草野順平

縣會議員
若松美三
鈴木辰三郎
山崎吉平
野崎滿藏
古川傳一
鷺清昇

石城郡大野村字玉山
玉山鑛泉
藤屋旅館

石城郡大野村字玉山
玉山鑛泉
石屋旅館

石城郡大野村字玉山
玉山鑛泉
玉屋旅館